

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月19日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己評価		自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
自己点検・評価項目	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント					
小項目1-1 教育理念、目的及び目標の設定等			【長所】「実学教育・人間教育・国際教育」の理念が教職員・学生に浸透しており、学則第1条に基づく開校の目的が明確に文書化されている。 【課題】理念に基づく「育成人材像」が、最新の社会情勢やZ世代の価値観に完全に対応できているかの検証。	③・2・1	・明確で全体が理解できる理念を表している。 ・滋慶学園グループの建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)を具現化するために教職員および学ぶ学生も目標を定め目的を確認しながら日々励んでいる。将来は食に関する高い知識と専門技術・感性と想像力を身に付ける努力に拍手をおくりたい。 ・時代とともに価値観は変化しているが料理の世界には変わらない厳しさも感じている。その両者のギャップを理解し現代とのバランスをとらえている理念だと思う。
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科ごとに育成する人材像を明確にしていること。	3	(1)教育理念：建学の理念として「実学教育」「人間教育」「国際教育」の3本柱を掲げ、すべての授業や研修のベースとしている。 (2)目的(学則第1条規定)：食に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を持った「クオリティーオブライフのコーディネーター」を育成する事を目的としている (3)目標及び育成人材像：仕事にプライドとやりがいを持ち、プロとして必要な「知識」と「技術」を持った医療や健康サービスの担い手を養成することを目指している。			
小項目1-2 職業教育のマネジメント体制の整備			【長所】「サッカー型組織」により、教務部、広報センター、就職(キャリアセンター)、総務経理(学生サービスセンター)の4部門が機動的に連携し、月1回の運営会議で迅速な意思決定が行われている。 【課題】理事会及び戦略会議等をはじめとする上位会議での決定事項を、非常勤講師を含む現場末端まで納得感を持って浸透させること。	③・2・1	・スムーズに解決するための組織づくり体制を設けている。 ・法人全体の計画方針を教務部・広報センター・キャリアセンター・学生サービスセンターが連携して運営にあたっている。運営・企画・設計・検証と改善などマネージメント体制の設備が進み迅速な対応ができている。 ・定期的な会議によりお互いの現状報告ができていて、多数名だけではなく、少数でも行われていて共有しやすい環境である。
1-2-1 職業教育を推進(教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等)するために必要なマネジメント体制を整備し、有効に機能していること。	3	・教務部、広報センター、就職(キャリアセンター)、総務経理(学生サービスセンター)の4部門が連携する「サッカー型組織」を理想とし、機動的な意思決定を行っている。組織図や職務分掌は事業計画に明記されている。 ・体制における役割分担、責任の所在：事務局長を学校責任者とし、各部長・学科長、センター長がそれぞれの部門の意思決定と事業計画の遂行に責任を負う体制を確立している。			
基準2 教育課程、教育の実施、学修成果					
小項目2-1 教育課程の編成と授業科目			【長所】カリキュラムポリシーに基づき、基礎・専門基礎・専門分野が系統的・段階的に配置されている。 【課題】学習習慣が身についていない学生や学力下位層の学生に対し、基礎学力のボトムアップ支援が必要である。	③・2・1	・明確な学びの提示を実施し、専門分野の今を取り入れている。 ・教育課程や実施と学修成果については、教育課程編成委員会の意見や提言そして産学連携の企業団体の情報などからカリキュラムポリシーを作成。さらに養成目的・教育目標を策定して基礎分野・専門分野など体系的に整備されていることは評価すべきこと。また、外国人留学生に対する就職のための外国人留学生キャリア形成促進プログラムも興味ある試みとなっている。 ・業界連携や留学生支援など実践的な体制で充実していると感じた。学力差や多様化するニーズに対して個人の支援が難しいのではと感じた。
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	3	・カリキュラムポリシー、養成目的・教育目標を策定し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野を体系的に配置しカリキュラムの編成をしている。			
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【職業実践専門課程】	3	・キャリアセンター、学科教職員からの業界情報を反映させ、教育課程編成委員会での審議を経て策定している。 ・職業実践専門課程として、東京都洋菓子協会、東京都司厨士協会等の業界関係者を委員に含めた委員会を年2回開催している。			
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を10単位以上開設していること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	・留学生に対し、日本国内での就職に必要な社会理解を促す指導・支援を実施している。留学生支援センターによる就労サポートなどを徹底している。	【長所】留学生に対し、事務手続きのサポートに加え、日本国内での生活や就職を円滑にするための「留学生向け生活マニュアル」を配布・活用し、個別の相談体制を整えている。 【課題】留学生が日本の職業習慣や社会構造をより深く理解し、国内就職へと繋げるための、日本語能力を含めた学習環境の更なるシステム化が求められる。		

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月19日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己評価		自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
自己点検・評価項目	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
小項目2-2 教育課程の実施				③・ 2 ・ 1	・Teamsを活用した取り組みは効率よく学びを得ている。 ・インターン先では実践的な取り組みの他にもビジネスマナーや組織での活躍をイメージできるような内容があるとより良いものとなる。 ・昔と違いインターネットを利用して連絡や指導がある。 ・インターンの実施にあたり、学校側として学生のために十分な準備をされていることがわかりました。 ・授業計画に沿った講義、演習、実習が学習管理システムによつて的確に実施されている。同時に産学連携の授業では他行にはない(Wロングインターン制度)により長期インターンとして5週間を2回、ホテル・ウエディング企業で宿泊型研修を実施していることは、現場力の育成と自分自身の適応力を知る素晴らしい企画だと高く評価する。教育目標の達成のためにフードビジネス科では、さらに総授業時間が1740時間に対して1500時間の実習と実演が組まれていることも賞賛に値する。 ・長期インターンは実際の業務経験を積み、短期ではわからない自分に合う、合わない仕事が理解できやすくキャリア形成には大きな利点であると思う。近場でのインターンでも長期的なものがあると就職を考えやすいではないかと思う。
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	3	・科目の目標に照らし、講義、演習、実習を適切に選択している。学習管理システムを活用している。 ・全科目でシラバス・コマシラバスを作成し、学生に授業内容や到達目標を事前に明示している ・シラバスを活用し、日々の授業内容が資格試験合格や技術習得に直結することを意識させた指導を行っている ・学則および施行細則に基づき、試験、実習成果、出席状況を総合して評価し、学生便覧で基準を明示している	【長所】Teamsを活用した問題配信など、ICTを活用し、学習に躓きを感じたときに、いつでも・どこでも学習環境にアクセスできる環境を整えている。 【課題】臨時試験等の成績評価に関して、シラバスに掲載することで、より公平性のある成績評価となると考える。		
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【職業実践専門課程】	3	・パティシエ科・調理師科においては、ホテルやウェディング企業を中心に特別実習のみならず現場でのインターンなど実践的な連携教育を実施している。特にWライセンス科においては長期インターンとして5週間×2回、リゾートホテルでの宿泊型インターンを実施し学生の現場力の育成とミスマッチを防ぐ取り組みを行っている。 ・教育目標の達成に向け、各学科の特性に応じた実習時間を確保する方針を立てている。例えばフードビジネス科では、総授業時数1740時間に対し実習・演習が1500時間を占める(約86%)など、実践的な職業教育の質を担保するための十分な実習割合を設定している。	【長所】インターン先の企業様と連携し、到達目標を共有した質の高い現場実習を行っている。 【課題】コミュニケーション能力に課題がある学生の実習不適應への対策		
小項目2-3 単位・卒業認定				③・ 2 ・ 1	・単位と卒業認定は学生便覧に明記され、また入学時よりオリエンテーション等でも充分に説明がされており、学生・保護者も理解している。学期末の卒業進級判定会議も学校長を中心到的確に行われている。国家試験取得合格レベルの知識、技術、職業人としての(身構え・気構え・心構え)教育は高く評価すべきだと思う。
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	3	・ディプロマポリシーに基づき、所定の単位修得、国家資格合格レベルの知識・技術、職業人としてのマインド(身構え・気構え・心構え)を基準としている ・学生便覧に明記し、入学時のオリエンテーション等で周知徹底している ・学期末の「卒業進級判定会議」において、個々の学生の評価に基づき厳正に決定される	【長所】ディプロマポリシーに基づき、卒業進級判定会議において厳正な判定がなされている。 【課題】経済的・健康的な理由で学業継続が困難な学生への長期履修制度等の柔軟な提案。		
小項目2-4 学修成果目標の達成状況				③・ 2 ・ 1	・学生それぞれの個に合わせた就職提案・支援が素晴らしい。 ・卒業後1年経過した時点での就業状況調査やアンケートを実施して教育課程の見直しに活用しているというのはとても良い。 ・学修成果目標の就職希望者内定率100%は維持されており、就職後1年未満の離職率は11・0%と低い水準となっている。これは確認テストや模擬試験を段階的にを行い、将来の国家試験合格に向けての学生の実力の把握とともに、面談を通して学生の特徴や内面の変化も見逃さない細やかな指導の賜物だと思う。 ・就職希望者内定率100%という実績は学校として大きな魅力である一方で入学すれば就職できるという印象を学生に与えてしまう可能性もあると感じる。製菓衛生師試験の試験も同様に学生自身の主体性が求められることをより伝えることで合格率に反映されるのではと思う。
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	3	(1)卒業認定方針に明示した修得内容の把握方法：模擬試験、実技評価表等を用いて、段階的に職業能力の修得状況を把握している (2)学生の進路に関する目標設定と達成状況の把握：就職希望者の内定率100%を目標とし、キャリアセンターで内定状況や専門職就職率を月毎に数値管理している	【長所】確認テストや模擬試験を段階的に実施し、国家試験合格に向けた習熟度を正確に把握している(製菓衛生師) 【課題】模擬試験の結果から見える学力格差への早期対応と国家試験へのモチベーションを高める取り組み。		
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	2	(3)進路、キャリア形成に関する学生への指導・相談体制：キャリアコンサルタントを配置し、個別面談や就職講座を通じて、学生個々のニーズに合わせたキャリア支援を行っている。 (4)進路状況の多角的、継続的な視点に立った検証と教育内容の改善への取組：卒業後1年経過した時点での就業状況調査や同窓会アンケートを実施し、その結果を教育課程の見直しに活用している。	【長所】就職希望者内定率100%を維持しており、キャリアコンサルタントによる専門的な相談体制が整っている。 【課題】卒業1年後の離職防止と、業界からの卒業生評価のさらなる収集・分析。		

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月19日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

		自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
自己点検・評価項目		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
基準3 学生の受入れ、学生支援						
小項目3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理					③・2・1	・全国的に入学者が少ないカフェ科の募集定員が適切なのか ・学生の募集は資格取得や専門職に意欲を持った人材を国内外から集めている。その募集に対しては在籍する在学生の収容定員と募集定員を確認し、定員の充足を管理して運営会議・入学選考会議等を経て適正に行われている。課題は18歳人口の激変と競合する他校との学生募集での競争。さらには大学進学率の上昇は専門学校にとっては大学と専門学校間で取り合いになるから、さらに高校生と保護者の意向・世の中の移り変わりを察知する市場調査が必要である。 ・インスタグラムなどSNSを活用した発信は若い方に拡散しやすくニーズに合っていると思う。
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	・アドミッションポリシーを策定し、資格取得や専門就職に強い意欲を持つ人材を国内・国外問わず受け入れている。 ・募集要項に入試区分(総合型選抜・推薦・一般等)や選考基準を明示し、適切に公表している。 ・入学選考規定並びに入学選考実施規定に基づき書類審査および面接に基づき、適性を総合的に判断する「入学選考会議」を経て可否を決定している	【長所】アドミッションポリシーを公表し、面接重視の選考で目的意識と適性を適切に確認している。 【課題】SNSや動画コンテンツを活用した、早期進路検討者への魅力発信の強化。			
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	(4)入学定員の充足と在籍学生数の管理：収容定員に基づき、募集活動の進捗状況並びに合格者の入学手続き状況を運営会議や入学選考会議等で随時確認し、適正な管理を行っている。	【長所】事業計画上の収支予算と連動した厳密な定員管理(定員割の防止)が行われており、財務基盤の安定に寄与している。 【課題】大学志向の強まりや競合校の増加といった外部環境の変化に対し、ターゲットとする層への訴求力を維持し続けること。			
小項目3-2 多様な学生に対する修学支援					③・2・1	・留学生、日本食希望者に対してはどのように説明対応しているのか？ ・多様な学生の受け入れを行う取り組みが素晴らしい。 ・海外からの留学生については、事務手続きをする職員の配置・生活の為に(留学生向けの生活マニュアル)の制作と配布を実施して相互理解が深まるよう務めていることは評価すべきことだ。 ただ障害のある学生の受け入れと、授業の進め方を考えると国公立の学校と私学の立場の違いを明確にすべきである。 校舎の増改築(エレベーターの設置・階段や教室の手すりや段差の解消・音響機器の設置・映像機器の設置・モニターの設置)そして障害のある人の対応をマスターした人材の採用など、多くの壁があるように思う。是非関係官庁に設備や人材確保の資金的な支援を働きかけるべきだと思う。 ・海外の学生へのサポートが非常に優れていて、サポートセンター等も滋慶の系列でえ補えるのは大きな強みだと思う。
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	3	(1)障がいのある学生に対する配慮、具体的な支援：「障害者差別解消法」に基づき、修学上の困難を抱える学生に対して「合理的配慮」を提供する体制を整えている。滋慶トータルサポートセンター(JTSC)や学校が指名する専門職による検証・報告に基づき、学校長が許可した事項を書面で明示し、本人との合意の上で支援を実施している。	【長所】JTSCとの連携により、専門的な知見に基づいた組織的な合理的配慮の提供プロセスが確立されている。 【課題】メンタルヘルス等、目に見えにくい課題を抱える学生への、担任・カウンセラー・専門職による「チームアプローチ」のさらなる迅速化。			
3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	・事務手続きをサポートする担当職員の配置や、日本での生活・就職ルールをまとめた「留学生向け生活マニュアル」を配布し、個別の相談体制を整備している。 ・定期的な面談による在籍管理を実施するとともに、日本国内での専門職就職を目指した計画的な進路指導を行っている。 ・全学生を対象にした導入教育では、クラス環境における相互支援関係の構築を通じて、日本人学生との交流や相互支援関係の強化を促進している。	【長所】生活面からキャリア形成まで一貫した支援体制があり、学業のサポートのみならずビザの更新などの専門的な指導が行われている。 【課題】専門用語の習得を含めた日本語能力の個人差への対応や、コロナ禍で中断していた国際交流プログラム(海外研修等)の再構築。			
3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	(5)学生の経済的側面に対する支援：独自の「学費分納プラン」や、日本学生支援機構の奨学金予約採用制度の案内、学費相談窓口を設置している。	【長所】独自の「学費分納プラン」や日本学生支援機構の奨学金活用により、経済的な不安を解消する体制がある。 【課題】学費の分納利用増加に伴う、事務方の管理業務負担の軽減。			

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月19日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己評価		自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
自己点検・評価項目	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
小項目3-3 学生生活に関する支援				③・2・1	・グループ内での手厚いサポートがあり、先生方が学生のフォローを積極的に行っている。 ・学生生活に関する支援はとても優れていると思う。 ・学生に対する支援は、まず専門のスクールカウンセラーを配置して学生相談室を解説している点と、教職員全員がカウンセリング研修をしている事・そして病気や怪我の場合には多少時間がかかるがグループの慶生会クリニックでの診察・治療が無料で出来ることは安心感と信頼が生まれる。さらに留年希望者や休学者にも具体的な指導と長期履修規定に基づき履修や進路変更の相談に応じていることは評価できるものとなっている。 ・クリニック等、滋慶学園グループ内での連携サポートが充実していてトラブル時での個人負担も減り、何よりの相談できる環境がある安心感が大きい。 ・就職した先輩方のリアルな情報を取り入れることでより自分にあった職場を見つけることができるのではないかな。
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	3	(1)学生生活に関する相談体制の整備と周知：スクールカウンセラーによる「学生相談室」を設置し、年度始めのオリエンテーションで全学生に告知、ポスター掲示、相談室カードの配布により学生への利用促進を推進している。 (2)学生相談の状況把握と対応：スクールカウンセラー、担任、学科長・教務部長・事務局長による「チームアプローチ」により、学生の悩みに迅速かつ組織的に対応している	【長所】専門カウンセラーを配置した学生相談室を設置し、全教職員がカウンセリング研修を受講している。 【課題】メンタルヘルスの課題を抱える学生への「チームアプローチ」のさらなる迅速化。		
3-3-2 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	(3)学校保健安全法に基づく学校保健計画の策定：学校保健安全法に基づき、学生の心身の健康を維持・増進するための「学校保健計画」を毎年度策定し、運用している。 (4)学生の健康診断の実施、心身の健康に関する啓発・指導：毎年1回、全学生を対象とした定期健康診断を実施し、その結果を適切に保存・管理している。また、滋慶学園グループ内の「慶生会クリニック」(内科・歯科)と連携し、在学中の学生が無料で診療を受けられる体制を整えている。	【長所】学園グループの医療機関(慶生会クリニック)との強固な連携により、学生が経済的負担なく速やかに医療サービスを受けられる体制が確立されており、心身両面からのサポートが可能となっている。 【課題】例年一次健康診断の受診率が高いものの、有所見者に対する2次検査の受診率が低いのが課題であったが、2025年度は改善し2次検査の受診率も向上した。今後も一過性の結果とならないよう健康リスクの早期発見・対応の重要性に浸透には課題が残る。		
3-3-3 留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	3	留年者、休学者の状況把握と具体的な指導：長期履修規定等に基づき、学業継続が困難な学生に対する履修相談や進路変更の相談に応じている。 退学希望者、退学者の状況把握と具体的な対応：「キャリアサポートアンケート」の結果から退学の兆候を早期に把握し、個別面談を通じて支援策を講じている。	【長所】業務システムを活用して学生の出席状況を逐一把握をして面談などを実施し退学者のモチベーション維持を行っている。 【課題】学習困難者の増加によりサポートの範囲が広がってきている。		
3-3-4 学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	キャリアエンターの連携は教務部のみならず、全ての部署と連携をして学生のサポートを行っている。求人票は学内の求人ファイルにて閲覧可能だが、学生ポータルサイトにてもいつでもどこでも求人の閲覧ができるようになっている。	【長所】姉妹校の求人もリアルタイムで閲覧でき、キャリア選択の幅が広がっている。 【課題】情報の周知はできているが、学生の行動変容まではできていない現状もある。		
小項目3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援				③・2・1	・放課後、休日の環境が開けている。興味や関心を広げるサポートを感じられる。 ・ベルズクラブは娘も積極的に利用させていただいており、卒業生も利用できるというのは素晴らしい支援だと思う。 ・学生に対して放課後の施設の開放・ 少人数での学習サポート。 またテスト結果による指名制による講義・個別指導は相互の理解が深まるばかりか学習成績の向上も図れると思い高い評価をつけたいと思う。 また学習支援として放課後に正規の授業とは別な、しかも興味関心が高いものを技術向上のために提供している姿は素晴らしい事だと感じる。 欲を言えば地域活動の中に組み入れれば、地域社会との関係が深まって貢献も出来ると思う。 社会貢献、ボランティアに参加するメリット(コミュニケーションが苦手な人ほど話す力が伸びる・普段できない経験ができる等)をより多く発信すると良い。
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	・放課後の施設開放や小集団での学習サポート、teamsを用いた自己研鑽の環境を整備している。 ・小テストや中間テストの結果に基づき、指名制の補講や個別指導(チューター制)を実施している。 ・長期履修規定等に基づき、学業継続が困難な学生に対する履修相談や進路変更の相談に応じている。 ・「キャリアサポートアンケート」の結果から退学の兆候を早期に把握し、個別面談を通じて支援策を講じている。	【長所】「ベルズクラブ」により、放課後等の個別学習サポートや業界セミナーを充実させている。 【課題】学習意欲が低下した学生に対する、スモールステップでの動機付けの継続。		
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	2	・興味関心の学習支援(ベルズクラブ)：放課後等の時間帯を活用し、学生の興味関心に応じて技術向上のための練習機会を提供している ・学園全体の「職業体験フェスタ」等のボランティア・地域貢献活動への参加を積極的に奨励し、指導している。 ・江戸川区葛西地区にある姉妹校でインカレサークルが行われている。ダンス、フットサル、バドミントン、ラテアートなど複数のサークルが存在している。	【長所】「ベルズクラブ」により、正規の授業以外にも個々の学生の価値に応じた＋αの学びを提供できており、学習モチベーションの向上に寄与している。また、地域イベントを通じて学生が現場の職業観に触れる機会を組織的に創出している。 【課題】社会貢献や地域貢献活動について、希望制のプログラムでは参加する学生が固定化される傾向にあるため、より多くの学生が主体的に関われるような啓蒙と、ボランティア情報のさらなる収集・発信が課題である。		

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月19日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己点検・評価項目		自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
自己点検・評価項目		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
基準4 教員・教育実施組織						
小項目4-1 教員の配置、募集、採用				③・ 2 ・ 1	・学生のことを考え、行動している職員が非常に多い。 ・職歴、実績が豊富な先生方が多く、現場のことも相談でき、学生も安心な満足度の高い授業だと思う。	
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に運用していること。	3	(1)教員の採用基準： 建学の理念や育成人材像への共感、学生指導方針の遵守、および各職種の養成要件を満たすことを基準としている。 (2)教員の配置： 各学科に必要な基幹教員および専任教員を適正に配置している。	【長所】理念に共感する実務家教員を適正に配置し、学生満足度の高い授業を実現している。 【課題】現場経験の長い現役シェフの絶対数が少ないため、中長期的な教員の安定確保。			
小項目4-2 教員の組織編制等				③・ 2 ・ 1	学校の教職員体制は学校長を中心に学科長・教務部・広報センター・キャリアセンターが連携した組織として機能を発揮していると感じる。 学校という組織は集団指導体制と個々の高い知識&経験&人間力で決まる。ますます期待している。	
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	3	・学校長のもと、各学科に学科長および必要な基幹教員を配置している。教務部、広報センター、就職(キャリアセンター)、総務(学生サービスセンター)の4部門が有機的に連携する「サッカー型組織」を導入し、機動的に教育活動を展開する体制を構築している。 ・事業計画において職務分掌を明文化し、事務局長を学校責任者、学科長を学科運営の意思決定責任者として、それぞれの役割と責任を明確にしている。教務部長が全体を補佐し、教務研修や学科会議を通じて情報の共有と意思決定を行っている。	【長所】事業計画に基づき組織図と職務分掌が整備されており、各教職員が自らの役割を認識し、部門を越えたプロジェクト活動に積極的に参画している。 【課題】非常勤講師を含めた教員集団全体の教育目標の共有度を高め、組織としての教授力をさらに向上させること。			
小項目4-3 教員の資質の向上				③・ 2 ・ 1	・新たな取り組みや時代に合わせた活動を行っている。 ・教職員の研修、特に教員の研修については、滋慶教科科学学会を中心に年間30回を超える研修や公開授業で、質の向上や授業の内容と改善を図ったり、自己啓発の様々な取り組みをしており、教員への支援も手厚いものがある。 また産学連携の企業とは、教員の専門分野のさらなる向上を図るために、知識・技術・技能を習得する研鑽を続けている。 このことは教員の授業力の向上と指導力のアップに繋がり、教員にとっても学生にとっても価値ある研修・研鑽だと高く評価するところである。 ・時代が変化していく中、授業アンケートや研修が充実していて「今の世の中」に合わせる努力に関心した。その反面、対応する側の研修等の負担が多くなるのではないかと思う。	
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	(1)教員の資質向上に向けた研修計画の策定と実績：「スタート研修」や「教務研修」、「講師会議」などの学内研修計画を策定し、継続的に実施している (2)学校の授業の内容及び方法の改善を図るための FD(Faculty Development) な組織的な取組：滋慶学園グループ全体でのFD公開授業の実施や、授業アンケート結果のフィードバックによる改善を行っている (3)教員の研究活動、自己啓発等への支援：滋慶教育科学学会での研究発表や、自己啓発に関する支援制度を設けている	【長所】滋慶教育科学学会(JESC)やFD研修・公開授業により、組織的に教授能力の向上を図っている。 【課題】生成AIの業務活用やDX教育スキルなど、時代の変化に即したスキルの継続習得。			
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にやっていること。 【職業実践専門課程】	3	(4)企業等と連携した教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修の組織的な取組(職業実践専門課程認定校)：職業実践専門課程の要件に基づき、ホテルやウェディング系の企業と連携し、最新の業界動向を修得するための研修を学内で実施している。 また、滋慶教育科学研究所(JESC)の教育部会を通じて、各姉妹校の教員と技術力向上のための研修を実施している。	【長所】現場の「今」を熟知した実務家教員を積極的に採用・配置しており、業界団体との密接なネットワークを通じて最新の技術を教育に反映できている。 【課題】現場で活躍している現役のシェフの絶対数が少なく、中長期的な教員の確保が課題である。			
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にやっていること。 【職業実践専門課程】	3	職業実践専門課程として、教員の教授能力および学生指導力を組織的に向上させるため、滋慶教育科学研究所(JESC)と連携した多様な研修プログラムを実施している。特に、学生一人ひとりに寄り添った指導を実現するため、部署を問わず、全ての教職員に対して2年間にわたる「JESC認定教職員カウンセリング研修」の受講を義務付け、カウンセリング技術の標準化を図っている。また、初任者講師研修会やFD公開授業を通じて、授業運営上の留意点や成功事例を共有し、実務経験を効果的な教育技法へと変換するための体制を整えている。	【長所】全教職員がカウンセリングマインドを共有しており、学生の悩みを早期に発見し、専門のカウンセラーや医療機関へ適切に繋ぐことができる重層的な支援体制が強みである。また、現場の「今」を知る実務家教員が組織的なFD活動を通じて指導力を研鑽している。 【課題】DX化の進展や生成AIの普及など、急速に変化する教育環境に対応するため、ICTを活用した新しい指導スキルの継続的な習得と、それを全教職員(非常勤を含む)へ浸透させることが課題である。			

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月19日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

		自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
自己点検・評価項目		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
基準5 教育環境						
小項目5-1 教育環境の整備点検、改善等				【長所】業界標準の最新機器を備えた実習環境が整っており、学生が現場に近い感覚で技術を習得できる点が高い満足度に繋がっている。 【課題】厨房機器の高度化に伴い、中長期的な設備更新のための安定した予算確保と、最新の業界トレンドに合わせた設備見直しの継続が求められる。	③・2・1	・一度に導入する数が多いのか動いていないものも見受けられる。 ・専修学校設置基準・設置法に照らし合わせ、また実学教育・産学連携教育に力を入れているために、学校内の施設・設備や調理実習室・製菓実習室・カフェ実習室・レストラン実習室等は最新の設備を設置している。 学生が企業で即戦力として働くために、企業が備えている機器を導入している事は高い評価ができる。 ・レストラン実習室があることで調理だけではなく、お客様が見える位置での実習、提供ができ、より現場に近い環境で学べる点が魅力である。
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	3	・「実学教育」という視点を重視し、調理実習室、製菓実習室、カフェ実習室、レストラン実習室など、即戦力を養うための最新設備を整備している。全館フリーWi-Fiを完備し、ICTツールを活用した効率的な学びを支援している。 ・5か年計画に基づき、グループ関連企業による建物・設備の定期点検を適切に実施している。老朽化や技術進歩に合わせた改修・更新計画を事業計画に明記し、計画的に予算を執行している。				
小項目5-2 安全対策、防災組織				【長所】マニュアルの完備、全学生分の備蓄、安否確認システムの運用など、不測の事態に対するハード・ソフト両面での備えが非常に充実している。 【課題】訓練の形骸化を防ぎ、学生・教職員が常に高い危機意識を持ち続け、有事の際に対応できる能力(自助・共助)を維持・向上させること。	③・2・1	毎年4月には全学生を対象とした避難訓練を実施している。 また火災や大規模災害に備えた、防災マニュアルの整備をしてさらに大規模災害時における学生・教職員の安否確認システムの導入と3日分の水・食糧の備蓄も進んでおり防災面でも高い評価をつけることができる。 ・スマホでの安否確認は今のニーズに合っていて、素早く集計がとれるが、面倒に感じやすく、通信障害等だと確認できない場合がある。
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	3	(1)学校保健安全法に基づく学校安全計画の策定と運用：防災マニュアルおよび危機管理マニュアルを整備し、全教職員・学生に周知している。 (2)火災の発生及び大規模災害発生時並びに授業中の安全管理等における対応：毎年4月に全学生を対象とした避難訓練を実施し、地震・火災時の避難経路を確認している。緊急通報・安否確認システム「Safety Link24」を導入し、災害時の迅速な状況把握体制を構築している。また、全学生・職員分の3日分の食料、水、防寒対策を含むサバイバルキットを備蓄している。				
基準6 教育活動の基盤と情報の公表						
小項目6-1 中期事業計画と財務基盤				【長所】「組織目的」から「実行計画」までが体系化されており、重層的な会議システムによってPDCAサイクルが確実に回っている。 【課題】上位会議での決定事項や中期ビジョンを、非常勤講師を含む現場スタッフの末端まで、より迅速かつ高い納得感を持って浸透させること。	③・2・1	・事業計画と財務計画は学校法人滋慶学園が組織の中心として機能している。法人の理事会・評議会さらに各種の運営会議で長期計画・5年後を見据えた中期計画によって、計画的に迅速に確実に学校の隅々まで意思が伝わり、そして実行されるシステムが構築されている。 グループ合わせて82校の学校と関連企業がある財務体制は揺るぎないものがある。このことは極めて高い評価である。 ・5か年計画を策定し、単年計画へ落とし込めているため、安定性につながっていると思う。PDCAの改善点をどう結びつけていくか。
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	・2022年度から2026年度までの5か年計画を策定し、それに基づき単年度の事業計画を作成している。 ・計画の中で「入学定員の充足」と「1年生進級率の向上」を最重要目標として掲げ、教育価値の創造を運営の中核に据えている。 ・運営会議や戦略会議において、毎月ごとに実績対比と進捗確認を行い、必要に応じて修正予算(4半期ごと)やアクションプランの見直しを機動的に実施している。				
6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	(4)教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤の把握と対応：公認会計士および監事による財務監査を毎年実施し、健全な財務体質を維持している。 (5)財務基盤が不十分な場合は改善に向けた計画の策定と計画の進捗状況の把握：収支バランスを理事会で毎年確認し、中長期的な視点での予算執行管理を行っている。	【長所】 学校と法人の財務部署にて2重に財務管理を行っている。 【課題】 中長期的な予算執行管理			

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月19日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己点検・評価項目		自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
自己点検・評価項目		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
小項目6-2 学校運営					③・ 2 ・ 1	・相談できる職員が近くにいることは学生にとってとても大切なことで異変にすぐに対応できる体制が良い。 ・学校運営の組織体制は、学校法人滋慶学園が基盤・基礎となつて財務・人事・運営・設備の維持管理まで整備されている。その組織の中で学校も、教務部・広報センター・キャリアセンター・学生サービスセンターが構築されて、校務分掌・事業計画を明文化して責任者・意思決定者を決定した組織になっている。 見事な組織だと感心する。 さらにスタッフ一人ひとりの成長を促し学習する組織にするために、マネージメント研修やカウンセリング研修を実施するなど学校運営に必要なことは意欲的に・貪欲に実行していることは高い評価である。 ・食を専門としてきた先生方を含め、専門外のことも学生に対応できるようにたくさんの研修が行われているからこそその学生との距離感の近さだと感じた。
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	3	・教務部、広報センター、就職(キャリアセンター)、総務(学生サービスセンター)の4部門からなる「サッカー型組織」を構築している。 ・事業計画において職務分掌を明文化し、事務局長を学校責任者、各部長・学科長をそれぞれの部門の意思決定責任者として配置している。 ・プロジェクト活動や各種委員会を通じて、部署の垣根を越えた連携と情報の共有を図っている。 ・学校長が校務をつかさどり、建学の理念の体現と事業計画達成に向けた最終的な執行管理を行っている。	【長所】意思決定システムが明確であり、環境変化に対して機動的に対応できるフラットで風通しの良い組織文化が形成されている。 【課題】決定事項の周知において、チーム間や個人間での理解度の差を解消し、組織全体での実行スピードをさらに向上させること。			
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に着け、意欲及び資質を向上させるためにSD(Staff Development)活動などの取組が行われていること。	3	・滋慶学園グループの「学習する組織」という理念に基づき、スタッフ一人ひとりの成長を促す重層的な研修体系を構築している。 ●「マネジメント研修」「OJTトレーナー研修」「新入職者研修」に加え、全教職員に2年間の受講を義務付ける「JESC教職員カウンセリング研修」を実施し、学生支援技術の標準化を図っている。 ●年度初めの「スタート研修」にて事業計画を個人単位の行動計画まで落とし込むほか、「教務研修」「広報研修」をはじめとした全体研修を通じて各部門の専門スキルを研鑽している。	【長所】教職員カウンセリング研修が義務化されており、全スタッフがカウンセリングマインドを持って学生対応にあたれる点が強みである。また、DX教育や法令遵守に関する研修が適時組織的に行われている。 【課題】非常勤講師を含む教員集団全体への研修効果の波及と、研修で得た知見が日々の学生指導の成果(中退防止等)にどう結びついたかの客観的な評価。			
小項目6-3 学校評価の実質と改善活動					③・ 2 ・ 1	・時代の変化や最新トレンドを取り入れ、常に成長することができている。 ・学校評価の実績については、毎年学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会の意見や要望を聞き取るとともに、洋菓子協会・司厨士協会からも業界の意見・ニーズを求めて教育活動に反映している。 さらにホームページで情報を開示し、問題点の改善も積極的に行うことは高い評価といえる。 学校の評価で忘れてはならないことがもう一つあった。それは先日実施されました学校関係者評価委員会の休憩時間のことで、学生の代表が自分たちが実習で作り上げた(ケーキとコーヒー)を持ってきてくれた。最高の歯ごたえと味・素晴らしい香りが漂った。これこそが真の成果であり評価の材料だと関心しました。嬉しかったことに教え子の姿があった。教職員の方々の心配りも感激した。
6-3-1 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその他の改善・向上において活用していること。 学校評価を実施し、改善状況を公表していること。	3	(3)教育課程編成委員会の開催状況年2回の「教育課程編成委員会」に東京都洋菓子協会、東京都司厨士協会を招聘し、業界ニーズを反映したカリキュラム改訂を行っている。 また「学校関係者評価委員会」において、業界、保護者、卒業生、高等学校、地域住民等の代表から学校運営全般に関する意見を聴取し、次年度計画に反映させている。	【長所】 学則に基づき、自ら教育活動の状況について、点検及び評価を実施している。 【課題】 学校運営において定量的に活用させることが次年度の課題である。			
6-3-2 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	学校関係者評価委員会にて評価委員の方より頂いた課題については、学校HPIに評価表を公表し、改善に向けた取り組みを実施している。	【長所】 学校ホームページでの情報公開が徹底されており、地域活動や業界団体との連携を通じて高い社会的信頼を得ている。 【課題】 定期的なHPへの情報公開			
6-3-3 学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に 行っていること。	3	「学校関係者評価委員会」において、業界、保護者、卒業生、高等学校、地域住民等の代表から学校運営全般に関する意見を聴取し、次年度計画に反映させている。	【長所】評価に対する改善の取り組みは主体的に実施できている。 【課題】人事異動などによる引継ぎ			
小項目6-4 社会からの理解と情報の公表					③・ 2 ・ 1	・学校の情報公開は、学校案内と入学に関する募集要項ばかりか、行事予定・事業報告・自己採点や評価委員からの評価して学校の財務関係までホームページで公開している。それによって学生ばかりか保護者の方々も、学校の教育方針や成績評価が理解が出来ているし、何よりも安心感が生まれる。また産学連携に参加する企業団体や地域社会・卒業生からも信頼を得ることに繋がっていることも高い評価といえる。 ・社会・地域貢献を食を通じて学校で取り組めるのは相互にとってメリットがある。多様化していく中でSDGsやLGBTQ等へにも学生のうちから関与していけたら面白いと思う。
6-4-1 当該専修学校の教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表し、継続する教育機関、産業界、自治体等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること	2	・学校ホームページに「情報公開」ページを設け、財務諸表(貸借対照表・収支計算書等)、事業報告書、自己点検・評価報告書、学校関係者評価結果、職業実践専門課程の認定情報を適切に公表している。 ・ヒルトン東京ベイ様と連携して実施している「子ども食堂」、学園全体の「職業体験フェスタ」の運営を通じ、地域住民や志願者に職業の魅力を発信している。	【長所】学校ホームページでの情報公開が徹底されており、地域活動や業界団体との連携を通じて高い社会的信頼を得ている。学則に基づき、自ら教育活動の状況について、点検及び評価を実施している。 【課題】SNSや動画コンテンツを用いた情報発信は強化されているが、コロナ禍で中断していた海外研修などの国際交流プログラムの再構築と、その教育効果の可視化が今後の課題である。			
6-4-2 教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること	2	年2回の「教育課程編成委員会」に東京都洋菓子協会、東京都司厨士協会を招聘し、業界ニーズを反映したカリキュラム改訂を行っている。	【長所】社会貢献・地域貢献の取り組みにより関連する産業界からの信頼を得られている。 【課題】高等学校や自治体からの意見聴取がまだできていない。			